

教員の総合業績(基礎資料)調査 氏名 (鈴木昭二)

1 研究業績

1) 著書・論文・学会発表・作品など(平成12-17年度に限る)

例:(欧文の場合は、原文 **alphabet** で記入してください)

#全著者あるいは作者名(自己にアンダーライン、単著の場合はアンダーライン不要)

&著書、学術論文又は作品の名称

\$発行所(総頁数)、発表雑誌又は発表学会(号・巻・pp・年月)、展覧会(場所・期間)などの名称

さらに、特別講演・シンポジウム(招待講演)・一般講演など(地方支部会・全国大会・国際会議)の別

註:学会・展覧会など、専門分野以外の人に分りにくい場合は、できるだけその社会的位置づけ、歴史、規模などの簡潔な説明を付してください

学術論文

#小松, 鈴木昭二, 鈴木, 松原, 小野, 坂本, 佐藤, 内本, 岡田, 北野, 棟方, 佐藤, 高橋, 本間, 長田, 畑, 乾.

&非ロボット技術者のための直感的ロボットオーサリングシステムの提案'

\$日本バーチャルリアリティ学会論文誌, Vol.11, No.2, pp.213-224, 2006.

#新井, 藤井, 浅間, 鈴木昭二, 嘉悦, 遠藤

&群ロボット環境における局所通信に基づく衝突回避

\$日本ロボット学会誌, Vol. 19, No. 1, pp. 45-58, 平成13年1月

#金田, 鈴木昭二, 吉岡, 川森

&LEGO MindStorms を用いたロボット機構教室の試み」

\$工学教育, Vol.49, No.4, pp. 25-29, 平成13年7月

口頭発表

#内本, 鈴木昭二

&類似画像検索を応用したロボットナビゲーションのための環境認識手法とその評価

\$第24回日本ロボット学会学術講演会, CD-ROM 2E24, 2006年9月

#大田, 鈴木昭二

&タスクベースのプランマーキングによる複数ロボットの協調作業の実現

\$第11回知能メカトロニクスワークショップ, pp. 91-94, 2006年9月

#鈴木昭二

&観光への応用が可能な地図システムの開発

\$観光情報学会第3回全国大会概要集, pp. 22, 2006.

#白浜, 鈴木昭二

&ポインティングデバイスを用いたスカラ型マニピュレータの操作方法に関する研究

\$ロボティクス・メカトロニクス講演会'06, CD-ROM 1P1-D12, 2006年5月.
 #佐藤崇正, 坂本大介, 内本友洋, 北野勇, 岡田孟, 本間正人, 小松孝徳, 鈴木昭二, 鈴木恵二, 小野哲雄, 松原仁, 畑雅之, 乾英男
 &オーサリング可能なシナリオ研究用ロボットのためのパーツコントローラの開発'
 \$第23回日本ロボット学会学術講演会, CD-ROM 1I24, 2005年9月
 #鈴木昭二, 鈴木恵二, 松原仁, 小野哲雄, 小松孝徳, 内本友洋, 岡田孟, 北野勇, 坂本大介, 佐藤崇正, 本間正人, 畑雅之, 乾英男
 &オーサリング可能なシナリオ研究用ロボットの研究開発
 \$ロボティクス・メカトロニクス講演会'05, CD-ROM ALL-N-016, 2005年6月.
 #鈴木昭二
 &ロボカップにおける無線LANの混信対策のための指向性平面アンテナの効果の検証
 \$ロボティクス・メカトロニクス講演会'03, CD-ROM, 2003年5月.

#鈴木昭二、大橋
 &ロボット競技会における2.4GHz帯無線LANの混信対策-ロボカップ2002の事例-
 \$第20回日本ロボット学会学術講演会, CD-ROM, 2002年10月12-14日.
 #吉岡, 鈴木昭二, 金田
 &ブロック教材を用いた機構製作教室の試み
 \$ロボティクス・メカトロニクス講演会'00, CD-ROM, 平成12年4月
 #吉岡, 鈴木昭二、金田
 &ロボット競技会における2.4GHz帯無線LANの混信対策-ロボカップ2002の事例-」
 \$第20回日本ロボット学会学術講演会, CD-ROM 3I37, 平成14年10月.
 #鈴木昭二、大橋
 &ロボカップにおける無線LANの混信対策のための指向性平面アンテナの効果の検証
 \$ロボティクス・メカトロニクス講演会'03, CD-ROM, 平成15年5月.

2) 学会活動(役員・会員)、学会の組織運営、学会誌の編集委員など(平成12-17年度に限る)

例:

#学会などの名称

&編集委員長又は委員などの別

\$ 任務期間(年月)

註: 専門分野によっては適宜変更(例えば、学会を展覧会などと記す)・追加説明を付してください できれば展覧会・学会などについても社会的位置付け、歴史、規模などの簡潔な説明を添えてください

#日本ロボット学会会誌編集委員会

&委員

\$平成 12 年 4 月より平成 14 年 3 月まで

#日本ロボット学会論文査読小委員会

&委員

\$平成 12 年 4 月より平成 14 年 3 月まで

#ロボフェスタ関西技術専門部会

&委員

\$平成 12 年 8 月まで

#特定非営利活動法人ロボカップ日本委員会

&理事

\$平成12-14 年

#ロボカップジャパンオープン 2000 実行委員会

&副委員長

\$平成 12 年 6 月まで

#ロボカップ 2002 競技運営委員会

&副委員長

\$平成 13 年 9 月より平成 14 年 6 月まで

#ロボカップジャパンオープン 2004 実行委員会

&委員

\$平成 14 年 10 月から平成 15 年 5 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス講演会'03 実行委員会

&プログラム副委員長

\$平成 14 年 10 月より平成 15 年 6 月まで

#日本機械学会 2004 年度年次大会実行委員会

&ロボティクスメカトロニクス部門代表委員

\$平成 15 年 4 月より平成 16 年 9 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門第一地区技術委員会

&委員長

\$平成 15 年 2 月より平成 18 年 2 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門技術委員会

&委員

\$平成 15 年 2 月より平成 17 年 2 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門運営委員会

&委員

\$平成 15 年 2 月より平成 17 年 2 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門広報委員会

&委員

\$平成 15 年 4 月より平成 16 年 1 月まで

#日本機械学会ロボティクスメカトロニクス部門表彰委員会

&委員

\$平成 15 年 2 月より平成 17 年 2 月まで

#日本機械学会

&ロボティクスメカトロニクス部門第一地区代議員

\$平成 15 年 2 月より平成 18 年 2 月まで

#日本機械学会

&校閲委員

\$平成 17 年 4 月より

#計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会プログラム委員会

&副委員長

\$平成 18 年 4 月より平成 19 年 1 月まで

#観光情報学会全国大会プログラム委員会

&委員長

\$平成 18 年 3 月より平成 18 年 6 月まで

3) 研究費獲得状況(未来大学外からの財源)(科学研究費、財団助成金、委任経理金など
(平成12-16年度に限る))

例:

#平成12-(13)年度

&財源、たとえば科学研究費補助金

\$研究課題名

%代表者、分担者の別、研究課題参加者数、あるいは〇〇研究所との共同研究(相手機関の協同研究者数など)

¥研究経費(例:平成12年度;800千円、平成13年度;500千円)

#平成18年度

&独立行政法人科学技術振興機構 地域イノベーション創出総合支援事業 平成18年度「シーズ発掘試験」

\$赤外線通信を利用したロボット用人間識別センサシステムの開発

%代表者,1名

#平成16年度,平成17年度

&独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 「次世代ロボット実用化プロジェクト」
「プロトタイプ開発支援事業」

\$「オーサリング可能なシナリオ研究用ロボットの研究開発」

\$分担者,6名

#平成15年度

&受託研究費

\$ウェブベースの業務工程管理システムの開発

%代表者,2名

¥平成15年度;500千円

4) その他(特許、内地研究(学内共同研究は除外)および在外研究歴と成果など特記すべきこと。本項目は平成12-16年度に限定しない。)

特許: MOBILE ROBOT SENSOR SYSTEM, United States Patent 5,819,008, 理化学研究所, Hajime Asama, Hayato Kaetsu, Shoji Suzuki, Yoshikazu Arai, Shin-ya Kotosaka, Isao Endo

2 教育業績

1) 教育負担の実態（複数教員で担当する科目の場合は、貴方の分担分のみ）本項目は時間割に含まれた教科（補講・補習など教室で行なったものは含む）を調査の対象としております。従って、〇〇研究会、〇〇同好会など、各教員室他で行なったものは、対象外とします。試験やレポートなどの採点時間も除外します。

例：

#科目名（講義・演習・実習・補講の別）、単位数・必修/選択の別、担当教員数（単独の場合は不要）

&実施期間（平成12年度前期、あるいは平成13年10-11月）、実施コマ数（休講しても補講で補えば算定する）、補講をしなかった休講回数（例：実施13コマ、休講2コマ）

\$実働時間数（全て、実時間合計(推定)値をお願いします）、演習などは一コマ1.5時間を超えていると思われるので、そのような場合は、たとえば一コマ2.2時間などと算定してください（例：実働22.5時間）

%受講登録学生数（例：45名）、平均的出席者数（例：38名；初めは40名、終りは25名など）、単位認定（合格）者数

註：本項目はできるだけ正確にお願いしたいですが、概数でも結構です 記述がない場合は0と判断します

#システム情報科学概論

&平成12年6月実施1コマ

\$1.5

%受講登録学生数80名

#情報機器概論（講義） 2単位両学科必修 C-D 1クラス分を担当 担当者数3

&平成12年前期実施13コマ

\$ 19.5(1.5 x 13)

%受講登録学生数85名，単位認定者数80名

#システム情報科学概論

&平成13年6月実施1コマ

\$1.5

%受講登録学生数81名

#情報機器概論（講義） 2単位両学科必修 A-D 4クラス分を担当 担当者数2

&平成13年前期実施26コマ(13 x 2)

\$39(1.5 x 13 x 2)

%受講登録学生数168名，単位認定者数166名

#電子センサ工学（講義） 2単位情報アーキテクチャ学科選択 担当者数1

&平成13年後期実施14コマ休講1コマ

\$21 (1.5 x 14)

%受講登録学生数77名，単位認定者数39名

#情報アーキテクチャ演習II（演習） 2単位情報アーキテクチャ学科必修・複雑系科学科選択 担当教員5

&平成13年後期実施13コマ休講1コマ

\$ 60 一度の演習でおよそ3 時間13 コマで39 時間 履修者に比べ担当者が少なかったため担当時間外に応援をしたこれがおよそ7 コマ分で21 時間相当

%受講登録学生数84, 単位認定者数80

#システム情報科学概論

&平成14 年6 月実施2 コマ

\$3 (1.5x2)

%担当学生数6名

#情報機器概論 (講義) 2 単位両学科必修1 年生全クラスを担当 担当者数1

&平成14 年前期実施52 コマ(14 x 3)

\$39(1.5 x 13 x 2)

%受講登録学生数253, 単位認定者数244

#情報アーキテクチャ演習II (演習) 2 単位情報アーキテクチャ学科必修・複雑系科学科選択担当教員5

&平成14 年後期実施13 コマ休講1 コマ

\$ 39 一度の演習でおよそ3 時間13 コマで39 時間

%受講登録学生数87, 単位認定者数87

#ロボティクスI 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1

&平成14 年度後期実施14 コマ

\$21(14x1.5)

%受講登録学生数24, 単位認定者数16

#システム情報科学実習I, II 担当教員数2

&平成14 年通年

\$実働90時間 (1コマ3時間を週2回、30週) 実質は、毎週1.5時間ほど学生の進捗状況などを確認する。

%受講登録学生数9

#情報機器概論 (講義) 2 単位両学科必修1年生 担当者数3

&平成15 年前期実施14 コマ

\$28(2 x 14) 講義準備を含め1回あたり2時間

%受講登録学生数87, 単位認定者数84

#情報アーキテクチャ演習II (演習) 2 単位情報アーキテクチャ学科必修・複雑系科学科選択担当教員5

&平成15 年後期実施14 コマ休講1 コマ

\$42 一度の演習でおよそ3 時間14 コマで42 時間

%受講登録学生数40名, 単位認定者数40名

#ロボティクスI 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1

&平成15 年度後期実施14 コマ 休講1コマ

\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
%受講登録学生数54, 単位認定者数24
#ロボティクスII 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1
&平成15 年度前期実施14 コマ 休講1コマ
\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
%受講登録学生数37, 単位認定者数19
#システム情報科学実習 担当教員数2
&平成15年前後期、実施 60コマ
\$ 実働90時間 (1コマ3時間を週2回、30週) 実質は、毎週1.5時間ほど学生の進捗状況などを確認する。
%受講登録学生数12名、単位認定者数9名
#知能システム制御特論 2単位大学院システム情報科学研究科選択 担当教員数1
&平成15年度後期実施 13コマ 休講2コマ
\$39(3x13) 講義1回あたり準備を含め3時間
%受講登録学生数2名、単位認定者数2名
#情報機器概論 (講義) 2 単位両学科必修 担当者数3
&平成16 年前期実施14 コマ
\$28(2 x 14) 講義準備を含め1回あたり2時間
%受講登録学生数83, 単位認定者数83
#情報アーキテクチャ演習II (演習) 2 単位情報アーキテクチャ学科必修・複雑系科学科選択担当教員5
&平成16 年後期実施14 コマ休講1 コマ
\$42 一度の演習でおおよそ3 時間14 コマで42 時間
%受講登録学生数43名, 単位認定者数42名
#ロボティクスI 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1
&平成16 年度後期実施14 コマ 休講1コマ
\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
%受講登録学生数50, 単位認定者数14
#ロボティクスII 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1
&平成16 年度前期実施14 コマ 休講1コマ
\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
%受講登録学生数21, 単位認定者数13
#システム情報科学実習 担当教員数2
&平成16年前後期、実施 60コマ
\$ 実働90時間 (1コマ3時間を週2回、30週) 実質は、毎週1.5時間ほど学生の進捗状況などを確認する。

%受講登録学生数10名、単位認定者数8名

#知能システム制御特論 2単位大学院システム情報科学研究科選択 担当教員数1

&平成16年度後期実施 13コマ 休講2コマ

\$39(3x13) 講義1回あたり準備を含め3時間

%受講登録学生数 14名、単位認定者数 14名

#情報アーキテクチャ演習II (演習) 2 単位情報アーキテクチャ学科必修・複雑系科学科選択
担当教員5

&平成17 年後期実施14 コマ休講1 コマ

\$42 一度の演習でおよそ3 時間14 コマで42 時間

%受講登録学生数42名、単位認定者数41名

#ロボティクスI 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1

&平成17 年度後期実施14 コマ 休講1コマ

\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間

%受講登録学生数47, 単位認定者数17

#ロボティクスII 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1

&平成17 年度前期実施14 コマ 休講2コマ

\$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間

%受講登録学生数18, 単位認定者数11

#システム情報科学実習I, II 担当教員数2

& 平成17年前後期、実施 60コマ

\$ 実働90時間 (1コマ3時間を週2回、30週) 実質は、毎週3時間ほど学生の進捗状況などを確認する。

%受講登録学生数10名、単位認定者数10名

#知能システム制御特論 2単位大学院システム情報科学研究科選択 担当教員数1

&平成17年度後期実施 13コマ 休講2コマ

\$39(3x13) 講義1回あたり準備を含め3時間

%受講登録学生数 22名、単位認定者数 15名

#システム情報科学概論

&平成17 年6 月実施 1コマ

\$1.5

%受講登録学生数189名

#ロボットの科学技術 2 単位システム情報科学部選択 担当教員数 1

&平成 17 年度前期実施 14 コマ

\$56(4x14) 講義 1 回あたり準備を含め 4 時間

%受講登録学生数 65, 単位認定者 53

#ロボットの科学技術 2単位システム情報科学部選択 担当教員数1
 &平成18年度前期実施 14コマ
 \$56(4x14) 講義1回あたり準備を含め4時間
 %受講登録学生数184, 単位認定者118

#ロボティクスI 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1
 &平成18年度後期実施14コマ
 \$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
 %受講登録学生数50, 単位認定者数6

#ロボティクスII 2単位情報アーキテクチャ学科選択担当教員数1
 &平成18年度前期実施14コマ+高専生対象に2コマ
 \$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
 %受講登録学生数27, 単位認定者数18

#システム情報科学実習I, II 担当教員数2
 &平成18年前後期、実施 60コマ
 \$ 実働90時間 (1コマ3時間を週2回、30週) 実質は、毎週4時間ほど学生の進捗状況などを確認した。
 %受講登録学生数9名、単位認定者数9名

#知能システム制御特論 2単位大学院システム情報科学研究科選択 担当教員数1
 &平成18年度後期実施 14コマ
 \$42(3x14) 講義1回あたり準備を含め3時間
 %受講登録学生数9名、単位認定者数7名

2) 成績評価方法 (その方法を具体的に記載・学生(社会)が納得するような具体的説明。)
 また、複数の教員で担当する科目の場合は、取りまとめの方法についても記述してください。

・情報機器概論

入門の必修科目に関しては、講義への出席と課題の提出が滞りなく行われているかどうか
 が主な評価である。

・ロボティクスI およびII

・知能システム制御特論

専門性の高い科目に関しては試験またはレポートにより評価する。

・情報アーキテクチャ演習II

必修で専門性の高い演習においては毎回の作業報告書のチェックを厳重に行い、最終的に
 はレポートにより評価をする。

・システム情報科学実習I, II

普段のグループ内での活動状況、報告書、自己申告の活動評価を元に評価する。最終的にプロ

プロジェクト学習 WG が評価を決定する。

- ・ ロボットの科学技術
教養科目である点を考慮し、専門的な知識よりも全般的な理解度や学習態度等を重視して評価を行う。

3) 講義方法など改善への努力 (FD 関連の講演会などの聴講回数、教育内容とそれらの効果について貴方が行われた事柄・目標を具体的に記述して下さい)。

- ・ 全体的なもの
 - ・ 講義評価ウェブページに書かれた学生の評価を参考にする。
 - ・ レポートに書かせた学生の感想を参考にする。
- ・ 情報アーキテクチャ演習 II
 - ・ 毎回の演習で報告書の添削および口頭試問による理解度のチェックを行った。
 - ・ 担当する教員間で連絡を密にし、評価がばらつかないようにした。
- ・ システム情報科学実習 I,II
 - ・ 市内業者と共同で行い、業務ワークフローに適したシステム開発を行った。適宜、書籍や URL などの資料を提示した。(平成 15 年度)
 - ・ 企業と共同でオープンソースのシステムを利用したアプリケーション開発を行い、システムの理解を深めるために講演会を実施した(平成 17 年度, 平成 18 年度)
- ・ ロボットの科学技術
 - ・ ノートを取ることを義務づけ、試験による評価に加えてノートを回収し評価を行った (平成 18 年度)

4) その他 (上記以外に特記すべきことがありましたら、簡潔かつ具体的に、箇条書きなどで記述してください。特に、貴方が作られたシラバスと現在教務委員会で検討されている (コース別) 講義内容・目標、あるいは JABEE などとの関連、並びに貴方が担当されている科目の位置付けなどについてご意見があれば記して下さい。また、本学は教員の専門分野が多岐にわたっているため、相互理解を目的としたコース特有の問題点や、皆さんの教育に対する抱負などを記述して戴いても結構です。)

3 大学の管理運営

各種委員会（委員長・委員、クラス担任、学習指導・生活指導、クラブ活動の顧問等の実績（具体的に記述してください、できれば実働延べ時間数など）、その他。

- ・ 共同研究センター運営委員会委員長（平成 18 年度）
- ・ プロジェクト学習ワーキンググループ委員（平成 18 年度）
- ・ 知能システムコース長（平成 18 年度）
- ・ 共同研究センター副センター長（平成 16,17 年度）
- ・ 教務委員会委員（平成 16,17,18 年度）
- ・ 広報委員会パンフレットワーキンググループ委員（平成 16,17 年度）
- ・ 新施設委員会委員（平成 15 年度）
研究等実施設計に協力した。
- ・ 産学連携委員会委員（平成 13 年度－平成 15 年度）
活動の大半を委員長に一任している。結果的に講演会や交流会の参加が主な活動となっている。
特に、平成 15 年度は函館アカデミックフォーラムの運営を行った。
- ・ システム委員会委員（平成 12 年度－平成 15 年度）
委員長不在が多いため委員長代理の役割を果たす機会も多い。実働延べ時間数はよくわからないが多い。週に 5 時間程度は費やしているのではないかと思う。特に年度末と年度初めは非常に作業量が多い。
- ・ 新入生のパソコン講習（平成 12 年度－平成 15 年度）
新入生のオリエンテーションの一環としてパソコン講習を行っている。講習自体はまる 2 日であるが、その準備には多くの時間がかかる。たまたま、システム委員会委員かつ情報機器概論担当者であるためになし崩し的に担当してきたが、本来は担当者とその負担についての議論があってもよいと考える。
- ・ 学生のパソコントラブル対応（平成 12 年度－平成 15 年度）
4 月のパソコン講習および情報機器概論の担当であることから学生からパソコントラブルが持ち込まれることが多い。一回の対応で 30 分から 1 時間、時にはそれ以上の時間をとられる。
- ・ クラス担任（平成 12 年度－平成 15 年度）
平成 12 年度、13 年度ともに 1 年生のクラス担任であった。4 月の面接以外は学生からの働きかけがない限りは特に活動をしていない。
平成 14 年度は 1 年 G クラスの担任であり、15 年度は継続して 2 年 G クラスの担任であった。
平成 16 年度は 1 年 K クラスの担任であり、17 年度は継続して 2 年 K クラスの担任であった。
- ・ サークル顧問
平成 14 年度 5 つのサークルの顧問である。名前だけで実働はしていない。
平成 15 年度 2 つのサークルの顧問である。名前だけで実働はしていない。
平成 16 年度 2 つのサークルの顧問である。名前だけで実働はしていない。
平成 17 年度 2 つのサークルの顧問である。名前だけで実働はしていない。

- ・ その他

学生に個別に相談を持ちかけられた場合にはその都度対応している。

4 その他

資格（技術士など）、地域への貢献（地域自治体審議会、委員会等の役員、委員。地域との共同研究・技術相談。公開講座・出前授業・市民向け講演）あるいは提言・御意見など

平成 14 年 10 月 上磯こども科学教室の講師をつとめた

平成 15 年 9 月 函館市千代田小学校にてロボット広場を実施した

平成 15 年 9 月 南苫小牧高校にて出張講義を行った

平成 16 年 5 月 旭川北高校にて出張講義を行った

平成 16 年 8 月 オープンキャンパス 模擬授業講師

平成 18 年 6 月 石狩南高校にて出張講義を行った。

平成 18 年 11 月 札幌啓成高校にて出張講義を行った